

(1) 不登校の経過 (5段階における特徴と対応)

混乱しており、子ども周囲の者も理由探索の時期

周期的に欠席や遅刻早退が始まり、何かにつけて登校を渋る。理由を聞いても分からず、仮に理由が解決されても状態が改善しないことが多い。次第に腹痛や頭痛などの身体不調の訴えや、表情の消失が見られるようになる。訴えは登校時刻のときが多く、学校を休めることが分かると不調は消失する。理由の特定が本人にもできず、登校できない状態に混乱する時期。

【家庭内の対応】・医療受診する。(まず主治医へ)

- ・ 身体症状出現で強い登校刺激は逆効果となる。
- ・ 一人で抱え込まず、SC等へ相談する。

Point!

3歩進んで2歩下がるイメージ

再び立ち上がる時期

不安定な登校が開始される。行動が徐々に活発になってくる。

- ・ 欠席を休息と考える。
- ・ 軽い励ましを与える。

初期対応

「登校渋り」

登校ライン

Point!

原因不明、抱え込まず相談する。

「再登校」

自立支援

「反抗・暴力」

「回復」

「底」

子の反抗に親は諦め始める時期

親の一言につっかかり、親への暴言が激しくなる。「〇〇のせいで・・・」といった他罰的な考えも強い。一方で、甘えやわがママが見え隠れする。几帳面さがなくなり、お風呂に入らない、着替ええないなどの怠惰な生活になる時期。

- ・ 登校刺激をやめて、心の安定を。
- ・ 毎日、規則正しい生活を。
- ・ 暴力的な子に対して、親がサンドバックにならないように。
- ・ 学校と継続的に連携する。
- ・ 将来どうなってほしいかという視点をもつ。

学校の様子が気になり始める時期

親と話したがる。生活リズムが改善し始め、生活の中で外出できたり運動したり勉強を始めたりするなどの新しい試みが表れる。また、学校の話話を嫌がらなくなる。

- ・ 情報を伝え、行動を促す。
- ・ 決めるのは本人に任せる。

Point!

登校刺激を再開する!

Point!

相談して一人で抱え込まない

「さなぎ」期で内面が静かに成長する時期

子は昼夜逆転の生活で、甘えと反抗を繰り返す。スマホ、オンラインゲーム等に熱中。親は絶望感に浸る。

- ・ 日常の声かけをする、口出し、手出しを控える。
- ・ 午前中には起床する生活を。

Point!

怠けているようなダラダラとした生活が続くが、活動のエネルギーが充電される大切な時間

※ 友達の誘いを原則、規制をしない。友だちの一言で一気に改善することがある。